

## 当事者及び自助グループ、回復支援施設等の民間団体 に対するヒアリング（概要）

日 時	対象者・団体	ヒアリングの概要（意見、要望等）
令和2年 9月11日 (金)	<b>特定非営利活動法人 京都マック</b>  ・依存症全般 ・回復支援施設	<b>（依存症について）</b> ・アルコール依存症の方の居場所づくりから始め、支援の領域が広がっている。依存症により自己否認していた方が自分を尊重できるようにしていくことが大切。 <b>（計画に対する意見、要望等）</b> ・どこかで支援に引っかかるような関係機関の連携。 ・依存の根底にある生きづらさにも目を向けた対応。
9月16日 (水)	<b>京都府断酒平安会 家族会みやび</b>  ・アルコール依存 ・家族会	<b>（依存症について）</b> ・依存症のことを知らなかった。同じ悩みを持つ者となつたり、対応の仕方がわかった。家族である自分自身の人生を大切にしてもよいことに気づいた。 <b>（計画に対する意見、要望等）</b> ・内科から依存症の専門医につながるまでの期間が長い。 ・自助グループへの活動支援。 ・家族支援の強化（当事者は治療を受けて良くなってくるが、家族の心の傷はなかなか癒えない）。
9月16日 (水)	<b>特定非営利活動法人 京都府断酒連合会</b>  ・アルコール依存 ・当事者	<b>（依存症について）</b> ・今日一日の断酒を積み重ねることは、自分ひとりでは無理。仲間がいるから苦しさに向き合える。 ・人生の楽しみであるお酒を飲めなくなる者を今後つくりたくない。 <b>（計画に対する意見・要望等）</b> ・早期発見、早期治療の取組。 ・自助グループへの活動支援。 ・学生や飲酒運転防止などの啓発（自助グループも協力）。
10月 2日 (金)	<b>特定非営利活動法人 京都DARC</b>  ・薬物依存 ・回復支援施設	<b>（依存症について）</b> ・薬物依存は病気である他に法律にも抵触する。偏見が強い。 ・DARCの回復者スタッフとして誰かの助けになることで生きる価値を見出し、自分も勇気を得ている。 <b>（計画に対する意見・要望等）</b> ・依存症に対する偏見の解消、病気であることへの理解促進。 （依存症、依存症者、回復支援施設に対する理解） ・医療による治療とともに生活支援の場が重要。
10月15日 (木)	<b>特定非営利活動法人 全国ギャンブル 依存症家族の会・ 京都</b>  ・ギャンブル等依存 ・家族会	<b>（依存症について）</b> ・ギャンブルにのめり込みお金を求めてくる家族にどう対応してよいのか、どこに相談すればよいのか家族会につながるまでわからなかった。 <b>（計画に対する意見・要望等）</b> ・依存症に対する偏見の解消、病気であることへの理解促進。 （誰でも依存症になることを多くの方に知ってほしい） ・自助グループ（当事者・家族会）が京都で増えていくような取組。
10月26日 (月)	<b>ギャンブル等依存症 当事者</b>  ※GAなどの自助グループに参加の方	<b>（依存症について）</b> ・自分が依存症であることがわからず、家族と疎遠になり、お金の困ってはじめて福祉につながった。 <b>（計画に対する意見・要望等）</b> ・依存症に対する偏見の解消、病気であることへの理解促進。 ・ギャンブル等依存症をみてる医療機関の増加。 ・仲間と一緒に依存に向き合う自助グループ等の活動周知。